

教育目標: ○元気な子 ○やりとける子 ◎考える子 ○思いやりのある子 めざす学校像: 保護者や地域から信頼される学校 めざす児童像: 子どもたちが主体的に学び活動する学校 めざす教師像: 教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○情報活用能力を育成するための活動を充実させ、豊かな表現力と実践力を育成する。	○NIEや図書資料の活用とともに、GIGA スクール構想による1人1台のタブレット型PCやICTを活用した授業改善を図り、情報活用能力のより一層の伸長を図る。 ○校内研究では国語科を中心として児童に情報収集・整理・分析・表現・発信できる力を育成する。	3		4		○ICTを活用して、児童に分かりやすく提示したり、説明したりすることができた。また、教科書のQRコード付きの資料を有効的に使った。 ○タブレットで植物の生長の様子を画像に納めて振り返りを行ったり、思考ツールを用いたりして情報活用能力の育成に努めた。 △低学年では特にタブレットの準備や片付けに時間がかかてしまう傾向がある。	・タブレットは全学年において様々な場面で積極的に活用しているが、今後は効果的な活用や多くの情報の中から正しい情報を取捨選択していける情報活用能力を身に付けさせていく。
			○図書館の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。 ○東京ベシーックドリルを活用して反復学習を習慣化し、未習熟事項を残さない。 ○習熟度別指導、算数補習教室を実施し、個別最適な学びの充実を図る。					2	4
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。	○分かりやすい言葉で、保護者・地域の方々へ積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かし、児童が地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域の特性を生かした「国分寺学」の創出に向け、小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。	○ブログやスクールメール、デジタル連絡ツール「スクリレ」を活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かしながら、地域の期待に応える教育活動を推進し、地域との連携を図った教育活動を発展的に継続する。 ○地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。 ○小・中連携事業として一中学区小中学校において、国分寺市を知り、郷土を愛する心情を育てる。	2		4	○ブログをこまめに配信し、スクリレによるデータ配信を充実させたことで、学校生活を積極的に保護者・地域へ情報発信することができた。 ○地域と連携した教育活動を展開することができた。 △CSとしての取組が前例踏襲になりがちであり、新たな地域素材の開発に結びつかない。 ○国分寺学の本格実施に向けて中学校区で話し合った内容を取り入れた学習系統表を作成できた。今後、国分寺学の意識化を図っていくことが課題である。	・全学年で地域と連携した教育活動を実施しているが、「国分寺学」の学びを深めていくためにも中学校区における情報共有を計画的、継続的にやっていくことで、新たな人材や地域素材を開発する。	
			○10月末の周年行事へ向けて、保護者・地域に積極的に協力を仰ぐため、学校だよりに学校ボランティアを募集するQRコードを掲載し、周知徹底を図る。 ○周年記念集会では、PTAと共に子どもたちの心に残るような企画立案や、卒業生である保護者や地域の方に講演を依頼し、地域とともに祝う周年行事を目指す。					2	4
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。	○自尊感情の向上を図る。	○「自分を大切に 友だちを大切に 一人一人を大切に 国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は教育活動全体を通して継続して取り組み、授業のキーワードを記入した記録を教室に掲示する。 ○特別支援教室担当教員を中心に特別支援教育の理解教育に努め、教職員・児童のみならず、保護者・地域にも特別支援教育の理解を深める。	3		4	○休み時間には子供たちと遊び、児童の良さを積極的に認める指導を行っている。 ○帰りの会では友達のよいところを発表する機会を設定したことで自己肯定感を高めることができた。 ○特別支援教室巡回教員による、教員、児童、保護者に対する理解教育の取組が充実している。新入生保護者会等でも特別支援教室の説明を行うことで、就学前から理解を深めていただくよう努めている。 △年間計画に理解教育のための時間を設定し、発達段階に合わせて指導を行っていくことが課題である。	・自己肯定感を高める指導を行い、今後も児童一人一人の居場所がある温かな学級づくりに努める。 ・互いの違いや良さを認め合えるような指導を目指す。 ・理解教育についての年間計画を作成する。	
			○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域において、適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の充実を図り、異学年活動を通して交流を深めることで帰属意識を育む。					4	4